

児童・生徒の現状・課題

- ・明るく素直で学習に前向きに取り組むことができる児童が多い。
- ・友達や先生の話の中心を捉え、考えを受け止めながら聞くことに課題が見られる。
- ・自分の力に応じて課題を選んだり設定したりすることに課題が見られる。

具体的な手だて

単元や授業の導入を工夫したりゴールイメージを明確にしたりすることで、児童が興味や関心を持ち、見通しをもって学ぶことができるようにする。

学び続ける力を育むための重点目標

○「授業をデザインする8つの取組」を意識した授業づくりを通して、児童が自分で考え、主体的に学び続けることができるようにする。

具体的な手だて②

目的や児童の実態に応じてワークシートや ICT 機器を活用し、個に応じた学習活動や学習課題を提供することで、児童が自己の力に応じて課題を見つけたり決めたりすることができるようにする。

児童生徒調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。		85.0	
②取り組む課題や調べ方、話し合う相手や発表方法など、学び方を自分で選び、学習をすすめることができる。		85.0	

具体的な手だて③

単元全体を通して、ペアやグループでの話し合いなど協働的な学びの場を設定することで、児童が他者との関わりを通して自己理解を深め、自他の考えのよさに気づきながら学び合えるようにする。

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(0月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。		100.0	
②授業では、他の人と考えを交流したり、協力して活動に取り組んだりする場面を設定し、児童の思考を深めたり、広げたりできるようにしている。		95.0	

校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

- ・日常的な相互授業観察「つるっとイン」や実践交流会「つるっとトーク」を行い、教員相互の学び合いを推進する。
- ・授業づくりの際に、児童が「選ぶ」場面を意識的に授業の中に取り入れる。

総括(5月) 校内のアンケート(5月)の結果から、本校の児童は、自己肯定感が高いが、自分の力を適切に理解し自己調整しながら学ぶことに課題が見られた。要因としては、自分で課題を見つけたり選択したりする経験や、客観的に自己認識をする経験が少ないことが考えられる。そこで、教員が児童に「選択」させる場面を意識的に授業の中に取り入れるようにしたい。また、児童が自分のよさや頑張りを振り返ったり、互いのよさを伝え合ったりする機会を増やし、自信をもって学びに向かうことができるようにする。

総括(1月)